

東アジアから見る 現代社会

日本は東アジアの一部であり、東アジアの国々と深い関係にあります。本講座では、思想、経済、歴史、社会など多角的な視点から東アジアにある日本を考えてみたいと思います。そこからは、日本を含む東アジアの多様性ととともに東アジアと日本の社会の密接な関係が見えてきます。かつ、日本の現在を見つめ直す手がかりが浮かび上がってきます。この講座を通じて東アジアの魅力を存分に味わってください。

開講日：8月27日、9月3・10・17・24日(土)
13時～14時30分

開講方法：オンライン配信(ZOOM)

対象者：高校生 募集人数：90名

担当講師：地域基盤研究機構 上水流
地域創生学部 朴・植村・工藤・目黒

申込方法：下記のQRコードまたはURLの内容を確認し、
「申込フォーム」に入力してください。

URL-[HTTPS://WWW.PU-HIROSHIMA.AC.JP
/SOSHIKI/RENKEI/KOUZA20220827.HTML](https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/kouza20220827.html)

申込を各回毎可能に変更しました。
申込締切は各回の講座日の2日前とします。
例：9月3日であれば9月1日



【プログラム】

回	テーマ・講師・内容	
第1回	●日本と沖縄（琉球）を考える	県立広島大学地域創生学部 准教授 目黒 将史
	皆さんは沖縄についてどれくらい知っていますか。沖縄は日本の江戸時代、琉球という一つの国でした。では、「沖縄」という地名はいつ頃からあるのでしょうか？前近代（近代以前）において、日本は琉球をどのように見ていたのか、また琉球は日本をどのように見ていたのか、日本と琉球、双方向からの視点でそれぞれの立場を読み解いていきます。そして、前近代の事例から現代の日本について考えてみたいと思います。	
第2回	●中国哲学から見る現代社会	県立広島大学地域創生学部 准教授 工藤 卓司
	中国哲学はかつて、日本でも多くの人々の常識でしたが、現代では顧みられることが少なくなっています。しかし、中国の哲学思想を過去のものとしてしまってもよいのでしょうか？今回は、儒家思想や道家思想を通じて、現代社会について考えてみたいと思います。	
第3回	●新語・流行語からみる現代中国の教育	県立広島大学地域創生学部 教授 植村 広美
	長い歴史と文化をもつ中国ですが、近年、急激な社会の変化に伴って新しい言葉が次々と生まれています。そこで、「孩奴（教育費に苦しむ子どもの奴隷）」と呼ばれる親から、大学卒業後も就職できずアルバイトで食いつなぐ「蟻族（蟻のように郊外の安アパートで身を寄せ合って生活する高学歴ワーキングプア）」と呼ばれる子どもたちまで、新語・流行語が映しだす現在の中国の教育事情を見ていきたいと思います。	
第4回	●K（韓国）コンテンツと経営戦略	県立広島大学地域創生学部 教授 朴 唯新
	昨今、全世界的に BTS のように、K コンテンツが注目されるようになりました。このような、K コンテンツの成功裏には、韓国政府と中核企業の匠な経営戦略があります。今回は K コンテンツの事例を通じて、戦略の重要性について学びたいと思います。	
第5回	●台湾にみる人権～独裁国家から民主国家への歩み	地域基盤研究機構 教授 上水流 久彦
	台湾では同性結婚が合法化され、また先住民族の権利保障も積極的に行われています。アジアの人権大国と言っても過言ではありません。しかし、1990年代前半まで言論の自由もありませんでした。台湾はどのようにして現在の地位を築いてきたのか、考えてみたいと思います。	

申込・受講にあたってのお願い

(1) 申込締切後、メールで受講案内をお送りします。

必ず、パソコンからのメール (@pu-hiroshima.ac.jp) を受信できるようにしておいてください。また、動画の視聴方法などの説明を添付ファイル (pdf) で送信しますので、添付ファイル付きのメールを受信拒否しないようにしてください。

(2) 申込締切後に受講案内が届かない場合は、お問い合わせください。